

Newsletter

特集 カウンシル No.8 第 21 期 (2010~2011) 第 1 回会合

「地域社会への発信」

Extend POWER *talk* to our Community

2010年11月29日(月) 10:00~15:50

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

午後の開会に先立ち、午前中は二つの英語のワークショップが行なわれました。(次頁参照)

お昼は2階の大食堂で各自590円のチケットで4種類から好きなメニューを選びます。

午後は公式訪問者のリージョン次期会長、葛谷美紀子様をお迎えしての開会です。リージョン会長、武内浩子様もいらしてくださいました。

(横断幕の代わりに、パワーポイントで第一回会合の表示あり)

開会5分前の予鈴が鳴ると アナウンスで・・・

「・・・ビジネスは一部をバイリンガルで行います。これは、英語クラブ会員がクラブより上のレベルでの練習をするために、希望者だけですが、割り当てられた時間内に、英語でも発言をさせていただきます。また、一部をパワーポイントを使って行ないます・・・」

会長挨拶でも今までの会合と違う点が・・・

「・・・先ず会場が代わりました。ここ数年来、会場費の値上がりで困っていたのですが、思い切って国立の施設を使うことにしました。来年ここでしたいならば、希望の日取りは、一年前の今から予約が必要です。

次に、参加費が安くなりました。食べたり飲んだりするのは、各自でいたします。今までのように食事やコーヒーが目の前に運ばれてはきませんが、部屋では研修、あとはカフェテリアで、というやり方です・・・」

プログラムは、日本語英語共に、10月末のITWでのワークショップを再現させ、好評でした。



英語ワークショップ

A. Everyone Has a Story to Tell

(誰でもストーリーが書けます)



- *ウィン・ボウラーの「書くワークショップ」をそれに出席した会員として再現した。
- *4つの演習を挟んで、夫々の発表を聞きあいながら進めた。

ウォームアップの演習は3-4コマ漫画を見てその内容を目を閉じても解る様に言葉で伝える為のシナリオを書く。

日常生活の極ありふれた一場面をきっかけに自分の持っている話のアイデアを書きとめる。

ワークショップリーダー： 柴田 ひさ 会員



自身が誰かに履かれる靴になったつもりで、立場と発想を変えて客観視してみる。
自分の伝えたい話を書き始めてみる。

- *会員の積極的参加のお陰で、活発なワークショップとなった。他人の書く物には常に発見と刺激があり、互いに学び教えられた。毎日が新しく、機会を頂いたことに感謝です。

柴田ひさ

B. Marketing Your Club

(クラブ会員を増やすには・・・)



- *ITWでの発表者はニュージーランドのスー・マーティン。
- *会員獲得について過去のやり方を見直し、将来の発展の方向づけを決め、今日の限られた環境で有効な手段をとることが大切であると説明した。
- *国際ウェブサイトが提供している廉価なマーケティング用品、名刺、パンフレット、葉書、ポスターなどの利用を勧めた。

ワークショップリーダー： 佐野 千賀子 会員



- *ワークショップを二部に分け、一部では、スーのレクチャー原稿をそのまま英語で読んで、その提案・戦略などを出席者に伝えた。二部では、参加者20名を4つのグループに分け、ディスカッション。スーの市場戦略に対して議論し、各クラブが実践している会員獲得策などを披露した。

プログラムリーダー岩佐圭子



1. 導入
課題のジョークについて外国に関するものを紹介し、日本を表すジョークをグループで考え発表するという進め方を、説明した。
2. ワーク 以下のステップを3つの課題で行った。
第1ステップ 元のジョークを紹介し、コメントする。
第2ステップ グループでジョークを作成する。
第3ステップ 作成したジョークを発表する。
第4ステップ 石川さん作成のジョークを発表し解説する。

*準備された資料を用いその背景にある文化を、幅広い視点から解説されるリーダー石川さんの軽妙な話に、とても興味深く聞き入った。
*各グループの発表は指名に困るほど、次から次へと手が挙がった。
*発表されるジョークに思わずうなずいたり、「よくぞ、そこまで言ってくれました」と笑い出したりした。
*会員の皆さんの発想の豊かさにより、現在の日本の特色をしっかりと捉えたジョーク集にしたいくなるような傑作ぞろいだった。
*楽しさプラス教養(?)が、ほんの少しですが、ついたような気がした有意義なワークショップであった。 プログラムリーダー 寺西キヌ子



会場について参加者の声より

大部屋にプロジェクターの画面がいくつもあり、設備が整っていて良かった。
会場は広く快適。トイレの数も多く、使いやすいように感じた。
殺風景なところは、ちょっとした花などで工夫が必要。
雑音が聞こえず、集中できた。
英語は気にならなかった。 英語の言い方を興味深く聞いた。
参加費が今までよりも安いのでとても参加しやすかった。
食堂は広く、値段、味もリーズナブル。清潔で庶民的。
食事不要のため準備担当の負担が軽減された。
ケーキ・お茶の時間が省けて、帰りを急ぐ人には良かった。
食堂の使用や、会議後のお茶時間がないのは、会議を目的とした集りなので、さっぱりとした対処で好感が持てる。
会場は荷物を預かってもらえないけれど、正門前に宅急便の店があるので、どうにかなりそう。
センターについてから会場の会議室が(部屋番号がわからず)受付の電話で判明。
今回はパソコンのメールだけのやり取りだったのでちょっと不安になった。
机や椅子の移動など、高齢化を迎える人にとって、自分たちでするのは 負担だった。
温度調節がやりにくかった。
もう少し落ち着いて食事を楽しめる所の方がいい。
他クラブと交流する場を持てる会場ではなかった。



編集後記

20周年を終えた今期は、会場、様式とも実質主義に。新生カウンスルNo.8の息遣いを感じる会合だった。(RM)